

令和2年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和3年4月19日現在

研究課題名	ソ連および現代ロシアにおける経済思想と都市経済開発の相関関係	
申請者	氏名	所属機関・職
	道上 真有	新潟大学人文社会科学系（経済科学部）准教授

研究成果の概要

本研究は、ソ連経済とソ連の都市経済の発展・変遷、ならびにロシア市場経済とロシアの都市経済の発展・変遷との間の相関関係を明らかにすることを目的としている。本研究では、北海道大学付属図書館、同スラブ・ユーラシア研究センターに所蔵されている中村泰三文庫を中心に、ソ連都市開発、住宅建設に関連する資料、法令等およびロシア都市開発や都市問題に関する最新の新聞や学術雑誌の関連記事・論文の収集とサーベイに着手した。本助成等による出張で、中村泰三文庫のソ連時代の都市開発、地理学、住宅建設に関する資料のかなりの部分を収集することができた。今後は、新聞資料にも着目して収集を続ける予定である。ソ連およびロシア時代の旧ソ連諸国を中心とした国々からの労働移民流入によって都市経済の諸相がどう変わるかについて、歴史資料と現代の資料を収集し、その成果の一部を研究論文および研究集会発表で披露した。また、2020年のコロナ禍の拡大と移民労働者の居住環境というテーマでロシアの国際学会でオンライン発表を行った。本研究助成による研究着手によって、令和3年度科研費基盤研究（C）に応募した結果、無事採択され5年間の助成研究が実現可能となった。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

[1] (論文) Mayu Michigami, Problems of Rental Housing and Living Conditions of Foreign Labour Migrants in Russian Cities (the 2010s), *Россия и АТР*, 2020, No.1, стр. 85-103 DOI

10.24411/1026-8804-2020-10007(査読)、謝辞有

[2] (研究発表) Mayu Michigami, The importance of focus on the housing conditions for labor migrants in the COVID-19 pandemic of Russia, Программа всероссийской научной конференции, «РЕФОРМЫ КОНЦА XX – НАЧАЛА XXI В. НА ПОСТСОВЕТСКОМ ПРОСТРАНСТВЕ: РЕГИОНАЛЬНЫЙ АСПЕКТ», 24-25-ноября(8-9 December, 2020) 2020 г. ИНСТИТУТ ИСТОРИИ, АРХЕОЛОГИИ И ЭТНОГРАФИИ НАРОДОВ ДАЛЬНЕГО ВОСТОКА ДВО РАН, オンライン、謝辞有

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

科研費・令和3年度・基盤研究（C）研究課題名「ロシアの都市の社会・経済発展：時の経済思想が住宅、土地、都市計画に与えた影響」に応募し、採択された（研究期間：令和3年度～7年度）。

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。